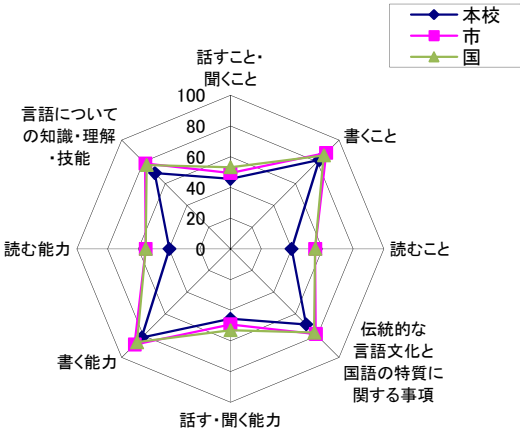


宇都宮市立上河内東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

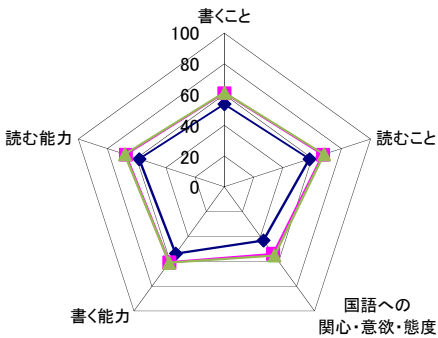
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	45.5	49.3	53.0
	書くこと	81.8	88.2	86.0
	読むこと	39.8	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.7	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	45.5	49.3	53.0
	書く能力	81.8	88.2	86.0
	読む能力	39.8	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	69.7	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	53.8	60.9	61.1
	読むこと	58.3	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	43.2	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	53.8	60.9	61.1
	読む能力	58.3	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 国語に関する質問において、「読書は好き」以外のすべての回答について、肯定的な回答の割合は全国平均を上回っている。
- 「国語の勉強は好き」と回答した児童の割合は全国平均を特に大きく上回っている。
- 「国語の勉強は大切」「国語の学習は将来社会に出たときに役に立つと思う」の肯定的な回答はどちらも100%である。
- 「読書は好き」の肯定的な回答は68.2%で、全国平均をやや下回っている。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	国語Aにおける領域の平均正答率は、全国平均を下回っている。 ● 聞き方の説明として適切なものを選択する設問で、話の聞き手として聞き方を工夫することに課題が見られる。	・聞き方の学習で、相手の話の目的や意図をとらえ、その理由や根拠を考えながら内容を聞きとるようにすること、自分の知識や経験と比べ、共通点や相違点などを整理しながら聞くことを意識させるように指導する。
書くこと	国語A・Bともに領域の平均正答率は、全国平均をやや下回っている。 ○ 新聞の割り付けについての設問の正答率は、全国平均を上回った。 ● 取材した内容を整理して書く設問の正答率が低く、取材内容を整理しながら記事を書くことに課題が見られる。	・取材した内容を新聞記事として書く学習では、読み手に最も伝えたい事柄を明確にした上で、伝えたいことが読み手に伝わるように整理して記事を書くことを指導する。
読むこと	国語A・Bともに領域の平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○ ()に入る言葉として適切な内容を書き抜く設問は、70%程度の正答率である。 ● 説明文を読み、文章の要旨をまとめて書く設問の正答率が全国平均を下回っている。	・要旨の学習では、話題の中心は何か、書き手はその話題についてどう考え、読み手に何を伝えたいのか、などについて、理由や根拠、キーワードなどに着目させ、教材文にラインを引かせたり書き抜かせたりして押さえさせるような指導の工夫・改善を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語Aにおける領域の平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○ 既習漢字の読みについての設問の平均正答率は、90%を超えており、良好な状況が見られる。 ● 既習漢字の書きについての設問の平均正答率は、60%に届かず、既習漢字を書くことに課題が見られる。	・既習漢字の読み書きの学習に関して、特に書き取りの練習を繰り返し行わせるなどして、習熟を図るよう努める。